

応援メッセージ

研修会等で御講演いただいた方々

みんなちがって みんないい（「私と小鳥と鈴と」から）

文部科学省社会教育課地域・学校支援推進室

室長補佐 下田 力



山口県でなじみ深い金子みすゞさんの詩の一節です。私は山口市立大庭小学校のOBですが、当時の恩師に教わりました。文部科学省がここ数年全国展開している、地域と学校が共に「これからの学び」を整えていくことについて、全国各地から、正解がまだない、一つではないことを考える不安についての相談を多く受けます。そんな時、山口県で習ったこの詩を思い出します。しかし、大事なのは、単に「違っていい」ことではなく、そこに至るまでの「考える」過程だと思っています。こうした詩の教えなどの伝統が背中を押していることが、山口県が先進地とされている強みの一つだと思っています。皆さん、自信をもって取組を続けてください。

山口県から新しい教育の風を

横浜市立東山田中学校コミュニティハウス館長 竹原 和泉



教育改革のうねりの中で、全国が注目している山口県。「地域協育ネット」とコミュニティ・スクールの「しくみ」に魂を入れ、子どものみらいのために動く大人のネットワークに底力を感じます。「チームとしての学校」の審議で示された「地域連携担当教職員」、山口県では校内コーディネーターとしてすでに大きな役割を果たされ、学校と地域の連携・協働のため、地域コーディネーターと共に動いています。また、子どもを地域社会の一員としてまちづくりをすすめたり、学校や地域を舞台に大人も学ぶ光景があります。山口県で展開されている先駆的な「まちとともにある学校」に学ばせていただき、御一緒に新しい教育の地平を築いていきたいと思えます。

大人の学びが子どもの学びにつながる

広島経済大学経済学部 教授 志々田 まなみ



山口県の「地域協育ネット」の特長は、学校・家庭・地域の連携活動の核となる推進母体を、地域のニーズにあわせて形作られている点です。子どもの育ちを支える地域のつながり方を、地域のみんなでアイデアを出し、話し合っていくプロセスこそが、柔軟で多様な活動を継続させていくうえでとても重要です。さらに、そうした地域の大人たちの学びを支える役割を、地域コーディネーターや社会教育・学校教育の関係職員等の皆さんが担われている点が、山口県の多くの実践が全国で注目されている理由だとも思えます。こうして磨かれた地域のつながりが、さらに新しい支援活動へとつながることを期待しています。

「地域協育ネット」を通じた地域づくりと学校づくり

山口大学教育学部 准教授 田中 理絵

社会・経済の変容に伴い、育児文化も随分変化してきました。子どもを取り巻く環境の変化は、家族以外の多くの大人の支えによって子どもが育つというマルチプル・ペアレンティングの乏しさをもたらしました。その結果、親は「子育ては家族のもの」と責任を一身に背負いがちですし、子どもたちが出会う大人は、親・家族か学校の先生に偏りがちです。「地域協育ネット」は、そうした子ども世界に地域の大人を参加させ、あるいは地域の大人世界に子どもたちを繋ぐことによって、地域づくりと学校づくりの両面に貢献してくれるものと期待しています。



困難を抱えた子どもや家族を支えるために

やまぐち総合教育支援センター

SSW エリアスーパーバイザー 岩金 俊充

皆様はこのたびの研修で、様々な分野の先生方から、たくさんの専門的知識を身に付けられました。これからはいよいよ実践家として、地域で困難を抱える子どもや保護者に手を差し伸べていきましょう。「虐待」や「子どもの貧困」の背景には、保護者の抱える「困難」と「孤立」という問題があります。まずは、身近で困っている親子へ「こんにちは」と、一声かけてつながっていくことから始めませんか。それだけで救われる親子がたくさんいます。困った時に皆様を支え、そして協働するためにもスクールソーシャルワーカーが各地にいます。たくさんの人たちがみなさまとの出会いを心待ちにしています。



「地域協育ネット」の推進に向けて御指導いただいた方々

「社会教育維新！未来へつながる 地域の絆づくり」

山口県社会教育連絡協議会 会長 相原 次男

平成 27 年 11 月、社会教育委員等として活動する約 500 名が、“明治維新胎動の地” 山口県に参集し、「第 38 回中国・四国地区研究大会」が開催されました。この大会を通して、持続可能な社会システムの構築を図るには、地域社会における「絆づくり、人づくり」が重要であることが確認され、改めて本県の取組である「地域協育ネット」の価値を再認識することができました。また、山口県社会教育委員の会議がこの 12 月に教育長に提出した提言書の中に、「地域協育ネット」の仕組みを生かして家庭教育を支援することの有効性が示されています。この提言を契機に家庭教育支援の体制づくりが大きく前進し、地域社会全体に子どもを育む支援者の輪が広がっていくことを期待しています。



「ふるさと山口」の素敵な後継者を育てるために

山口県コミュニティ・スクール推進協議会 会長 霜川 正幸



現在、地方自治体の多くは、人口の減少、産業の衰退やコミュニティの機能低下等の課題を抱えています。地方の弱体化は国全体の成長鈍化にもつながります。待ったなしの地方創生が求められています。しかし、その地方創生の主体は人であり、取組の多くは次代を担う子どもたちに託されることを忘れてはいけません。私たちの「ふるさと山口」に誇りと愛着を持ち、志を立て地方創生に生きる人材を育てたいものです。「地域協育ネット」のもつ「つながり」「まなざし」「温かさ」「みんなが主人公」を体感しながら育つ子どもたちこそ、「ふるさと山口」の素敵な後継者になってくれると信じています。今後ますますの充実深化を願っております。

その地域に合ったブランド教育をつくっていくために

山口県公民館連合会 会長 中原 和昭



山口県は、コミュニティ・スクール指定校が90%を超えたと聞きました。数値を上げることも大切ですが、これからは、量より質が求められます。その地域の実情に合った仕組みで御当地教育を作り上げることもより大切であると思います。やまぐち型地域連携教育の特色は、「地域協育ネット」と一体的に推進することにあります。この「一体的」とは抽象的で曖昧な表現で分かりにくいとも言われますが、曖昧だからこそ地域それぞれの特色が生かされる余地があると思います。要は、その町その地域ならではの強みを生かした「ブランド教育」を作ることです。

それぞれの地域で御活躍されている方々

子どもたちは地域の宝！つながりの中で育てたい

湯上中学校区地域協育ネット協議会 会長 河村 博次



本中学校区（3小・1中）では平成24年度から「湯上中学校区パートナーシッププログラム(KPP)」と称した小小連携・小中連携を推進し、9年間を見通した系統的な指導を行っています。KPPと4校の学校運営協議会を核とした「地域協育ネット」では、子どもたちのより良い育ちをめざして、意見交換、課題共有、具体的な解決策の提案等を行っています。今取り組んでいるのは「山口市内一本を読む中学校区」の実現です。「地域協育ネット」の取組を通じて、地域活動の場に元気な子どもたちの姿が以前よりも多くなり、コミュニティも活性化してきているように感じます。地域の宝である子どもたちを地域のつながりの中でしっかりと育てたいと思います。

地域の未来を担う子どもたちを育てる

厚東中学校区地域協育ネット協議会 会長 小林 征和

厚東中学校区では、地域の人々が「子どもたちは地域の宝」として色々な場面で子どもたちと関わり、支援をしています。小・中学校で共通の活動である太鼓をはじめ、毎朝の見守り活動や学校教育活動の支援、放課後子ども教室など様々です。子どもたちは、自分たちを支えてくれる大人の背中を見て、自分たちが大事にされている自覚をもち、感謝の気持ちを忘れていません。地域の人々は、その子どもたちが大人になった時、厚東中学校区という地域を更に発展させていく人材に育ててほしいと願っています。そのためにも、子どもたちとどのように関わり育んでいくのか、この「地域協育ネット」を通じて、今後も地域全体で考えていきたいと思います。



みんなで一緒に

通津地域協育ネット コーディネーター 竹原 京子

「CS？」からスタートし自分の立ち位置もわからぬまま担当の先生と相談しながら人探しをする一方、研修会に参加し他地域や他校のいろんな立場の方から情報を得て活動しています。もともと通津は豊かな「地域の力」と素晴らしい人材に恵まれ様々な活動が盛んな所、地域に密着した公民館は情報提供や公民館行事とのコラボなどアイデアの宝庫、運営協議会の皆様は各団体でも御活躍中で新しいミッションにあたふたしてもさっと助け舟を出してくださるそんな心強い方々です。この恵まれた環境に感謝しながら人に会いお話を聞きみんながつながっていくお手伝いをしています。通津に関わる一人ひとりの力を生かして人の輪を広げたいです。



「地域協育ネット」コーディネーター養成講座を終えて

下松市立花岡小学校 主査 岡田 陽子

知ることからはじめよう・・・と参加させていただいた「地域協育ネット」コーディネーター養成講座。県内外から、専門の方々に講師に来ていただき、毎回たくさんのお土産をいただいて帰りました。参加者交流では、学校や子どものことを本当に考えてくださっている素晴らしい応援団が、沢山いらっしゃるということを知りました。今年度からは「地域教育力日本一」を掲げ、「やまぐち型地域連携教育」の推進ということで、コミュニティ・スクールと「地域協育ネット」の活動を一体的に推進していくということでした。開かれた学校、更に進んで、地域とともにある学校。学校事務職員として何ができるか、まずは、自校教職員への情報発信からスタートです。

